

道徳学習指導案

日 時：平成 24 年 10 月 4 日（木）

生 徒：浜中町立〇〇中学校 第 3 学年

男子 7 名 女子 6 名 計 13 名

授業者：〇〇 〇〇

1. 主題名

1 - (5) 自分らしい生き方の追究

2. 資料名

『シェンテとシュイタ』（本年度学級演劇脚本）

3. ねらい

「人はいかにして生きるべきか」という生き方の問題について、自己が持つ道徳的価値をもとに考え、よりよく生きようとする態度を養う。

4. 主題設定の理由

中学校 3 年生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる。「人生いかに生きるべきか」といった命題にも、真剣に取り組むようになる。このことは、「よりよく生きたい」という願いの裏返しでもあり、価値ある人生の実現に向けて、限らない模索をしていることをあらわしている。また、「生き方について考える」ということは、本校が取り組んでいるキャリア教育の目標とも重なる。1 週間後に控えた文化祭が終わると、中学校卒業後の進路選択が本格的に始まる。その前に、自分自身が望む「よりよい生き方」とはどんな生き方なのかについて考えさせたい。

5. 資料について

善人探しのゲームを行う神様たちが訪れたのはセチュアンの国。主人公は、誰からも「善人」と評価され、あらゆる頼みごとを引き受けるシェンテと、人々の頼みごとをことごとく断るシュイタ。実はシュイタは、善人であるがゆえに悩み苦しむシェンテが自分自身と、墮落していく人々を救うために作りだしたもう 1 人の人格であった。「私はこれからどう生きていけばいいのか。シェンテとシュイタ、どちらの生き方を選ぶべきか」シェンテの問いに神様は答えを出さない。あえて結末を明かさず、観客にその答えを考えさせる。生徒達の道徳的葛藤を促す資料である。

1 週間後の文化祭は、彼らにとって最後の文化祭となる。特に演劇についてクラスの思いは強い。彼らにとってタイムリーな資料を使うことで、生き方に関する問題を自分ごととしてとらえやすくなると考えている。

6. 生徒の実態

《 省 略 》

7. 指導過程

	教師の働きかけと生徒の学習活動	生徒の予想される反応	指導上の留意点
導入 (5)	※フリートーク ○文化祭を1週間後に控えた今の心境 ○演劇の完成度について ○物語の結末はどうなるのか？(展開へ)	○意見を自由に発言 ・緊張する ・成功するか心配	○スクリーンと パワーポイントを使用
展開 (35)	○自分達が演じる物語の結末を考える テーマ1 シェンテは「シェンテ」と「シュイタ」 どちらの生き方を選ぶべきか。 ・どちらかを選択し理由まで考える ・それぞれの立場ごとに集まり意見交流 ・それぞれの立場に分かれて討論	○シュイタ派の意見 ・怠け者をこらしめるのは当然 ・正しい事をして何が悪い ○シェンテ派の意見 ・シュイタは厳しすぎる ・シェンテも苦しんでいる ○意見を自由に発言	○机間巡視 ○ワークシート はテーマごとに配布する ○座席を向かい 合わせる ○必要に応じて 指名する
	○自分自身が望む生き方を考える テーマ2 あなたなら「シェンテ」と「シュイタ」 どちらの生き方を選びますか。 ・どちらかを選択し理由まで考える ・テーマ2に関する自分の意見を発表 ○考えに変化がある生徒には理由を聞く	○シェンテ派が多数を占める ○変化があった生徒の意見 ・自分の事となると…	○机間巡視
終末 (10)	○「よりよい生き方」とはどんな生き方か テーマ3 あなたは、よりよく生きるためにどんな ことを大切にしたいですか。 ○数名に発表させる	○生徒の意見 ・困っている人は助けたい ・正しい事を正しいと言う ・自分らしく生きること	○ワークシート を回収する

8. 評価

- 生き方の問題についての自分の考えを、自らの道徳的価値に基づいて判断し深めることが出来たか。